

電氣蓄音器オリオンR-32について



東京電氣株式會社
事業部ラヂオ課

村 井 六 三 郎

ラヂオの目覺しい發達は、一時蓄音器を幽
閑した觀があつたが、結局ラヂオの普及發達
は却つて蓄音器の必要性を喚起させるに至つ
た。殊に蓄音器のレコードが電氣吹込とな
り、此れをビツクアップを用ひた所謂電氣蓄
音器で再生すれば原音に最も近
い音が出ることになり、レコー
ド音楽も電氣蓄音器の出現に依
つて、初めて完全に樂しみ得る
様になつた。

其の儘の聲音を樂しむことが出来る。
且つ最新式優秀なモーターを使用してゐる
から回轉は確實で不同がなく、長時間連続使
用するもモーターが熱する様なことはない。
又從來の此種のもの殆んど全部がダイヤル

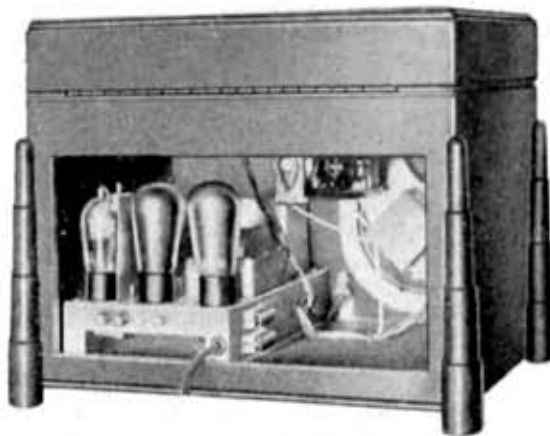
もあつたが、本器では此れを全部側面に取付

新發賣品のオリオンR-32
號は電氣蓄音器として多大の好
評を得て居るオリオン八〇〇號
の姉妹品であつて、優秀なビツ
クアップでレコードを再生し、
ダイナミック・スピーカーを働



第一圖 オリオンR-32號

高	38 釐	奥	行	39 釐
横	47 釐	重	量	15 斤

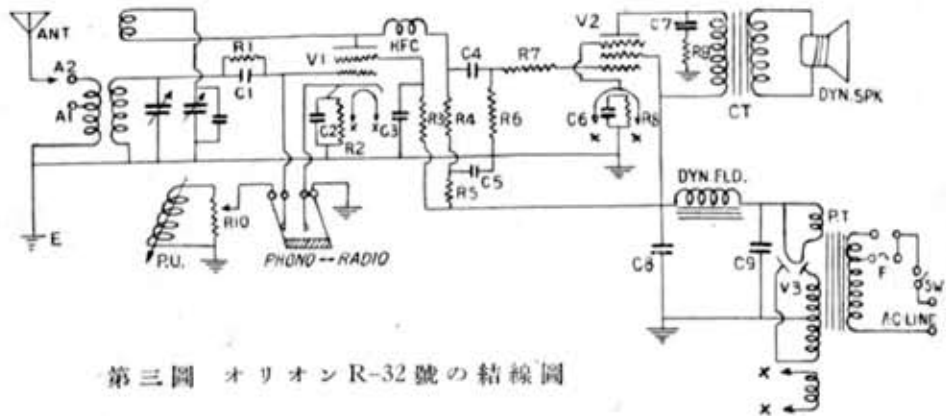


第二圖 オリオンR-32號内部

かしてゐるから、音色明澄、音量豊富、實演

を前面に取付けてある爲め、體裁上遺憾な點

け、前面は極めて優美な感を現はすに止めた
等、洗練された優雅な感觸は和室に適し、洋
室に好く、又店頭等の立派な裝飾品である。
又御婦人にも持運び出来る様に軽く設計し



第三圖 オリオン R-32 號の結線圖

の條件に叶ひ、實質は元より裝飾品としても申分のないラヂオ併用電氣蓄音器であり、推奨に値するものと確信する。

第三圖は本機の結線略圖であるが、御覽の通りラヂオ受信機としてはスクリーン・グリ

てあるから、凡そ時代の尖端を行くフォノラヂオとして具備すべき總て

V ₁	UY-224	R ₉	10,000Ω
V ₂	UY-247	R ₁₀	100,000(Potential)
V ₃	KX-280	C ₁	0.00025 MFD
R ₁	2 meg	C ₂	1 "
R ₂	25,000Ω	C ₃	0.5 "
R ₃	1 meg	C ₄	0.005 "
R ₄	250,000Ω	C ₅	1 "
R ₅	100,000Ω	C ₆	6 "
R ₆	500,000Ω	C ₇	0.005 "
R ₇	100,000Ω	C ₈	2 "
R ₈	400Ω	C ₉	4 "

ダイナミック・スピーカ一の効率と共に他の追隨を許さぬものであり、又整流管としてはマツダ真空管 KX-280 を用ひ効率のよい兩波整流を行つてゐる。受信機としての波長範圍は一、四〇〇キロサイクル(約二一四米)から五五〇キロサイクル(約五四五米)迄受信出来るから何れの局の聴取にも差支はない。又電氣蓄音器としては其の心臓部とも稱するビツクアップには最良のものをを用ひ、レコードの再生は檢波管 UY-224 以下の増幅装置で擴大し、各音階を最も良く現す様に特に注意して製作したダイナミック・スピーカ一を動作させてゐる。又音量の調節は勿論、

ツド四極マツダ真空管 UY-224 四、及び大型の五極ベントード UY-247 を用ひて居るので、清澄な音色と豊富な音量とは優秀な

一二吋回轉板及び速度調整器、自動停止装置等悉く完備し非常に便利である。殊に従来の所謂電氣蓄音器の型を破つて極く小型に、且つ軽く製作されてゐる點は御使用に際して見逃すことの出来ない條件であらう。電氣蓄音器のスイッチは機械的にダイヤル・シャフトに連結せられて居る。

電源は一〇〇ヴォルト、五〇—六〇サイクルで消費電力は約五〇ワットである。

扱て電氣蓄音器としてビツクアップを使用すると、レコードを痛めると云ふ様な説を往々耳にすることがあるが、此れは電氣蓄音器としては實際迷惑千萬なことで、事實は寧ろ全然反對である。レコードを損傷する原因はサウンド・ボックスの重さ、レコード面と針との角度、サウンド・ボックス並にアームの動き、針の質等であるが、先づレコード面の重量を比較して見ると、普通サウンド・ボックスは一五〇—二二五瓦(四〇—六〇匁)位である。然るにオリオン・ビツクアップは僅かに一一三瓦(三〇匁)程である。

レコード面と針との角度はレコードを痛める上に於て影響するのは勿論であるが、尙音質に重大な影響を及すものである。普通サウンド・ボックスは殆んど凡てが縦に長い爲

め、少しの傾斜も針先には甚しい傾きを與へるが、オリオン・ビックアップは其の構造を可及的に低くした爲、針先の傾斜することは絶対にない。殊にアームはスムーズに動く様に、重量の平均と云ふ點に注意してある爲め、ターン・テーブルの廻轉に連れて何等の支障もなく作動する様に細心な考慮が拂はれて居る。

サウンド・ボックスは御承知の通り雲母板、ジュラルミン等を主として使つて居る爲め、使用材料其の物の音を出すことは誰れしも考へられることである。其處で之等の材料を使用した從來の蓄音器が、一體に一種特別な固い所謂蓄音器らしい音を出すことと云ふことも争はれない事實である。ビクター、コロンビヤ、チニー等の高級品に於ては、各社競つてアーム及びホーン等に夫々工夫を凝らして居るが、其れでも猶音質に於ては物足りぬ感がある。即ち從來の蓄音器ではサウンド・ボックスの材料の關係上、低音を良く出すことは望んでも不可能なことであつた。然るにレコード音溝の刻みに依る針の動きを直接電氣的に変化するやうな電氣蓄音器が出現してからは、今迄の欲望であつた低音を思ふ存分に出すことが出来る爲め、急激な發展を來したの

は實に當然のことである。

然しあまり低音を出し過ぎて、電氣蓄音器は低音ばかりで高音部は出ないものと思はれる様な感じを一般に持たせるに至つた。此れでは佛造つて魂の無いのと同様で、音楽では殊に倍音が良く出ないと、實際の音とは遙かに違つた音になつて仕舞ふ。其處で低音部は素より高音部迄一様に平均に音の出る蓄音器が欲しいと云ふことになり、斯かる點に研究の重點を置き、各部分に互に詳細に研鑽を重ね、遂にオリオン電氣蓄音器を完成したのであつて、是非共御試聽を願ひたい。

最後に御参考までに電氣蓄音器の取扱上二三の注意すべき點を掲げる。

- (イ) レコードは其の種類に依つて所要回轉數が異なるから、其の廻轉速度に注意を要する(ビクターは一分間七八回、コロンビヤ、ポリドールは一分間八〇回)
- (ロ) 申す迄もなく針は其の都度取替へる事且つ良質のものを使用する事、レコード損傷の原因は大部分が針の不良に依る
- (ハ) 電氣蓄音器としては竹針は餘り成績がよくない。
- (ニ) ビックアップをレコード面に載せる時はビックアップを指で支へ、靜かにレコ

ード面に載せる事

- (ホ) ビックアップの調整が狂ふ恐れある爲め、ビックアップの針の部分の縁やターン・テーブル等にて激動を與へぬ様に注意する事
- (ヘ) モーターの故障の原因となるから、モーターの起動停止は必ずスキッチに依つて行ひ、決して廻轉中のターン・テーブルを手で止めぬ事
- (ト) モーターには時々所定の箇所より注油を忘れぬ事
- (チ) レコードの保存には濕氣のある場所は絶対に避ける事
- (リ) レコードが反つた時は日光にあてて手の中で溫度を感じる程度にして平な場所に移し、レコードを拾枚位載せて自然に直し、決して急激に重量を載せぬ事
- (ヌ) レコードの掃除にはビロードを用ひるのが最も効果的である。

電氣蓄音器としての必要條件は、ハム(雑音)のないことである。それに高音と低音とが適當に出て、それにヴォリューム・コントロール(音量調整)とトーン・コントロール(音色調整)とが自由に出来れば、オーケストラを聞く場合など樂器の個性が表れて誠に面白い。